

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関する ガイドライン 2015 年版

日本循環器学会、日本 TDM 学会 合同研究班 (班長: 青沼和隆 筑波大学医学医療系循環器内科学、志賀剛 東京女子医科大学循環器内科)

循環器病ガイドシリーズ、2016 年 2 月 25 日発行

### ■1 薬用人参

疾患:

相互作用

引用など:

- 1) Dasgupta A. Endogenous and exogenous digoxin-like immunoreactive substances: impact on therapeutic drug monitoring of digoxin. *American Journal of Clinical Pathology* 2002; 118: 132–40.
- 2) Dasgupta A, Wu S, Actor J, et al. Effect of Asian and Siberian ginseng on serum digoxin measurement by five digoxin immunoassays. Significant variation in digoxin-like immunoreactivity among commercial ginsengs. *American Journal of Clinical Pathology* 2003; 119: 298–303.
- 3) Dasgupta A, Reyes MA. Effect of Brazilian, Indian, Siberian, Asian, and North American ginseng on serum digoxin measurement by immunoassays and binding of digoxin-like immunoreactive components of ginseng with Fab fragment of antidigoxin antibody (Digibind). *American Journal of Clinical Pathology* 2005; 124: 229–36.

副作用に関する記載ないしその要約:

『ジゴキシンの血中濃度モニタリングを実施する際には、内因性のジゴキシンの免疫反応陽性物質やジゴキシンの化学構造を有する薬物に注意する必要があるのでしょうか?』に対して、解説の項に、下記の記載がある。

『センソ（救心などに含有）や薬用人参の成分などが抗ジゴキシン抗体と交差反応することによって、血中ジゴキシン濃度測定結果が実際より高くなることが報告されている。また、薬用人参による血中ジゴキシン濃度測定結果への影響は、薬用人参の産地によって異なることが知られており、さらに蛍光偏光免疫測定法（fluorescence polarization immuno assay; FPIA 法）においてその影響が現れやすいことも知られている。』